

改訂版

小学校3年生・4年生用社会科副読本



さかど

〈平成26年度版〉



坂戸駅



坂戸よさこい



大宮住吉神楽



高麗川一号堰

00579337-9

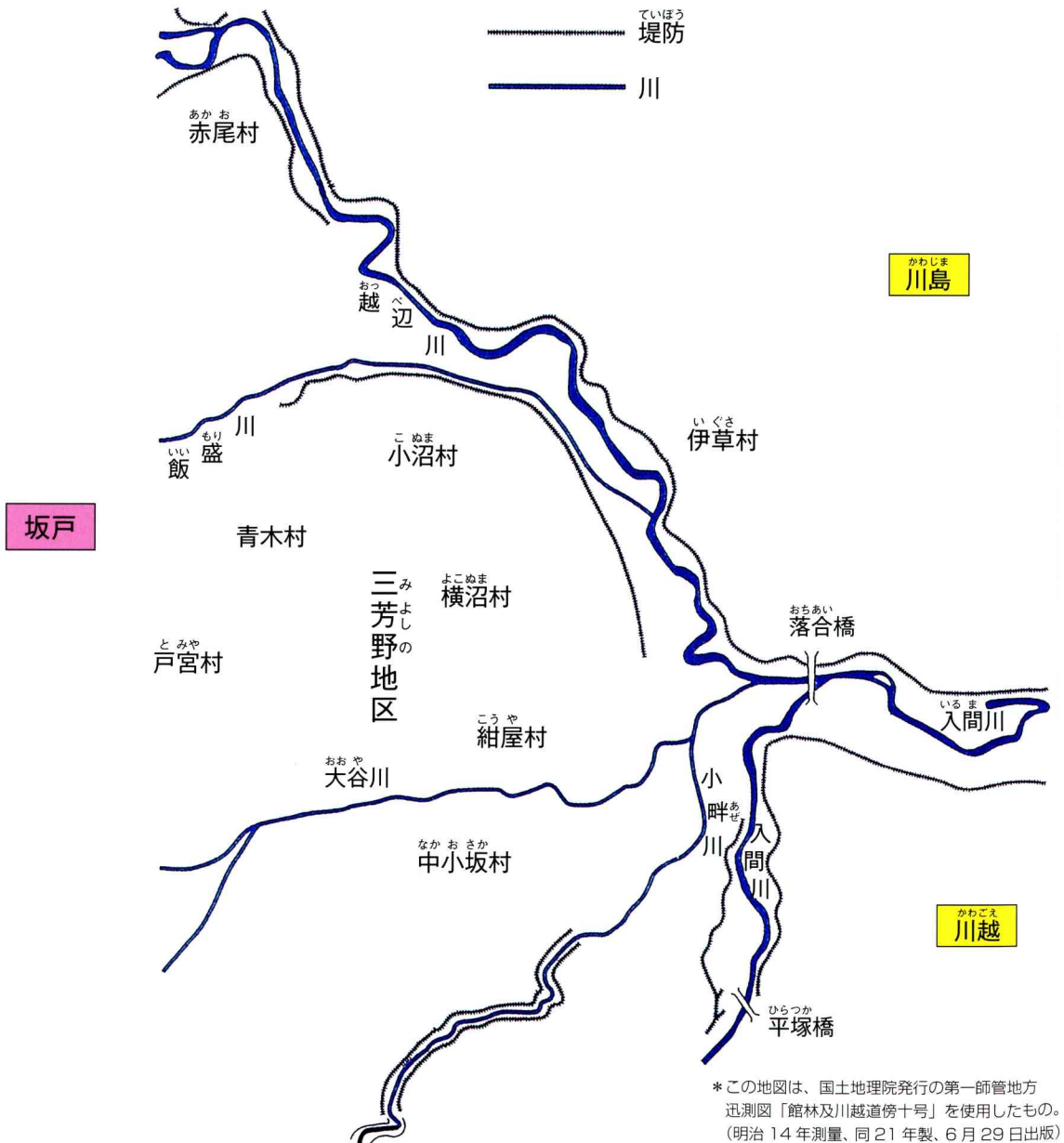
坂戸市立図書館

坂戸市教育委員会

4 きょう土をひらいた人びと

- 明治時代のていぼうと川の流れと今のていぼうや川の流れは、同じなのか調べてみましょう。

昔のていぼうや川の流れ



「大川堤遺跡記念ひって、何だろう。」



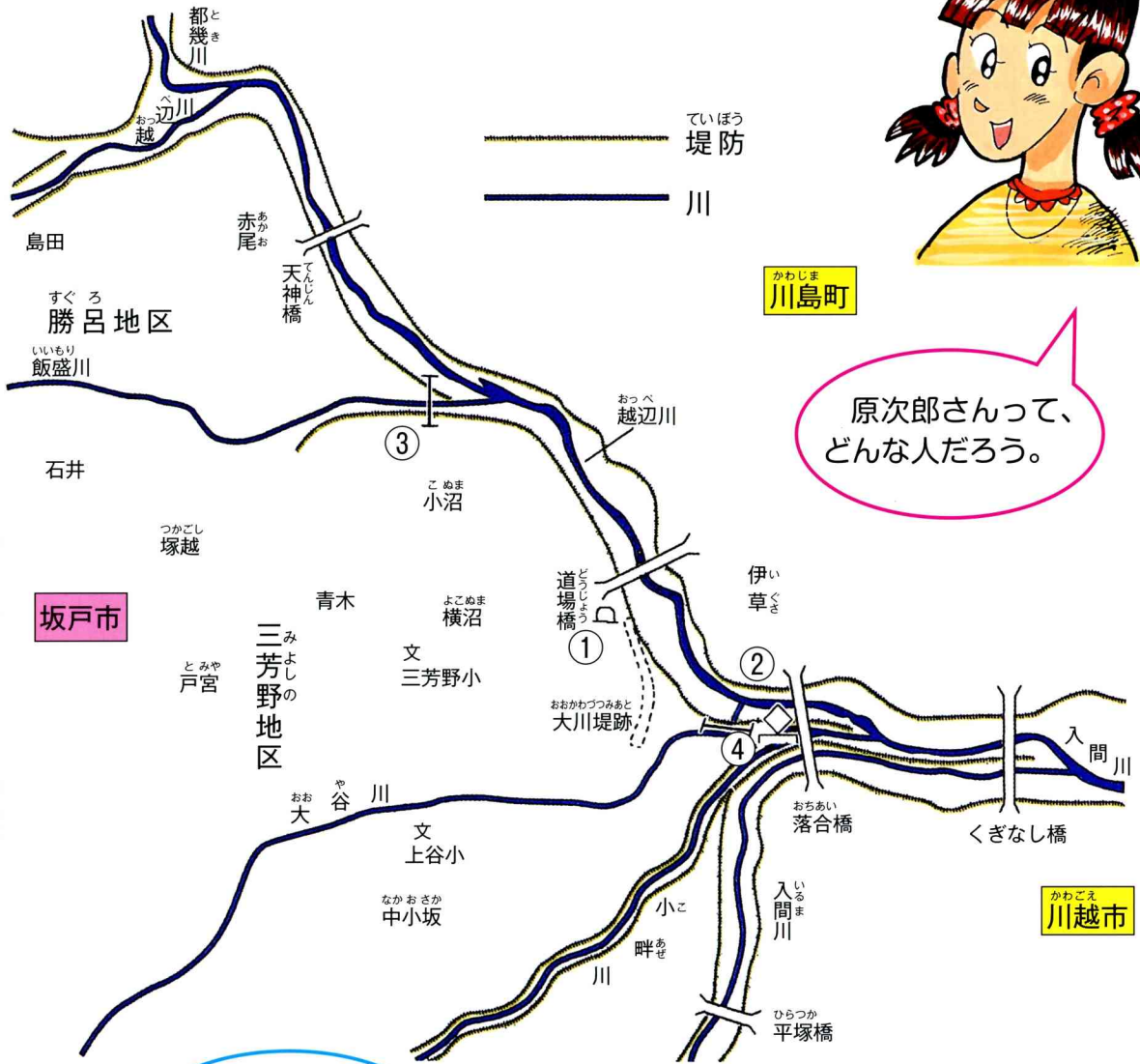
「原次郎記念ひがあるけれど、原次郎さんてどんな人だろう。」

今のていぼうと川の流れ



かわしま
川島町

原次郎さんって、
どんな人だろう。



かわこえ
川越市

大川堤遺跡記念ひ
って、何だろう。



飯盛川樋門

- ① 大川堤遺跡記念ひ
- ② 原次郎記念ひ
- ③ 飯盛川樋門
- ④ 大谷川樋門

*この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「川越北部」を使用したもの。(昭和31年測量。昭和52年2回改測、昭和61年修正改測。昭和62年7月30日発行)

○ 大川平三郎はどんな人だったのでしょ。



おっぺ
越辺川のていぼうに立つ記念ひ

記念ひには次のようなことが書いてあります。

道場橋より南1150メートルのていぼうは、たいへん^{ひく}低い所だったので何度もこう水に見まわれました。

そのひ害^{がい}は大きく、人びとの苦しみはたいへんなものでした。

そのようすを見た大川平三郎は、心をいため、何とか村の人たちをすくえないものかと考えました。いろいろな^{くろう}苦勞をし、大正14年にやっと県からのゆるしをえて、新しいていぼうを作りあげることができました。村人たちは、とてもよろこび、この記念ひを作って大川平三郎の努力に感しゃをしました。

(記念ひに書かれている文をやさしくしたもの)



大川平三郎の略歴^{りやくれき} (1860～1936)

- 1860年 三芳野村に生まれる。
 - 1875年 紙を作る会社に入る。
 - 1879年 紙を作る研究のためアメリカへ行く。
 - 1916年 横沼へ消ぼうポンプをおくる。
 - 1924年 生活をゆたかにするため三芳野の人びとに「むしろおり」をすすめる。
 - 1925年 越辺川^{おつべ}のていぼうを直すためのお金を出す。
 - 1928年 三芳野小学校をたてるためのお金を半分出す。
 - 1929年 国から表しょうされる。
 - 1936年 死去^{しきよ} (77才)
- 生涯^{しょうがい}にわたり 80 余りの企業^{あま}の設立^{せつりつうんえい}運営にかかわった。

大川平三郎の一生

1860年10月、川越藩^{かわごえはん}三芳野村^{みよし}に生まれました。

家はまずしく、毎ばんおふろにも入れないようなたいへん苦しい生活をしていましたが、「心ゆたかな人になろう」「もっと大きな人になろう」とねる時間もおしんで、勉強にはげみました。

13才のとき、おじの渋沢栄一^{しぶさわえいいち}をたよって東京へ行き、そこでドイツ語^{えいご}や英語を学びました。そして、時間を見つけては、物理学、けいざい学、てつ学などの本も一生けん命に読みました。

16才で、紙を作る工場ではたらき始めましたが、会社には朝5時から出かけて行って、機械の運転のじゅんびをし、一番むずかしい仕事は自分が引き受けるというがんばりようでした。

20才で、平三郎の一番のねがいであったアメリカリゅう学もはたし、その知しきをもとに、わが国さいしよの木ざいによる化学パルプを作ることに成功^{せいこう}しました。たくさんのとみとえいよを得た平三郎でしたが、三芳野村のために心をくだき、力をつくすこともわすれませんでした。

たびたびこう水にみまわれた村のためにていぼうをきずいたり、三芳野小学校を新しくしたり、校庭を広げたりして、大変努力^{どりよく}をしてくれました。